

## 新潟工科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和3年度実施分 自己点検・自己評価結果

### 1. 授業データ

|                |                  |               |
|----------------|------------------|---------------|
| 科目名：IoTとAIの基礎  | 科目番号：02170       | 担当者氏名：堀雅和     |
| 履修登録者数(A)：103名 | 成績評価対象者数(B)：103名 | 単位修得者数(C)：91名 |
| 比率(C/A)：88.3%  | 比率(C/B)：88.3%    | 平均点：71.6点     |

### 2. 成績分布を踏まえた到達目標の達成状況について

概ね達成できたものと評価する。  
ビジネスモデルに関するレポート課題に関しては、出題の意図をきちんと理解している学生が非常に少ない印象であったとのことから、課題の内容については今後の吟味を要する。

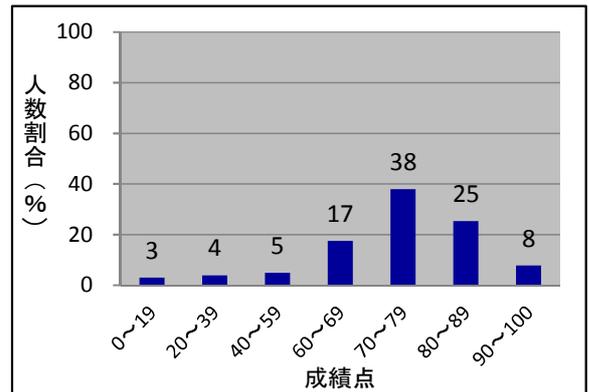


図1. 成績分布

### 3. 学生による授業評価アンケート結果について

学生から一定の評価を得ているものと判断する。  
当該授業科目は明確な技術的ゴールのある科目ではないため、内容を印象付けるような工夫が大事である。それには、単なる講義では難しく、学生自身が頭を使って考えるような演習をすることが重要である。

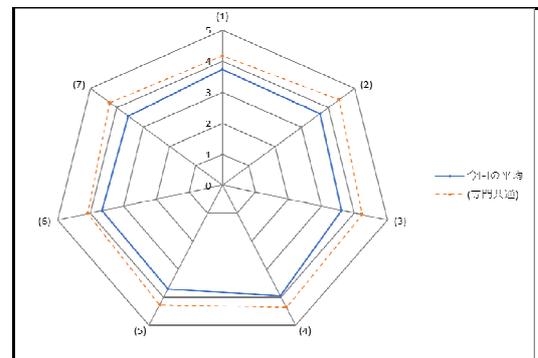


図2. 授業評価アンケート結果

### 4. 教育効果向上へ向けた取り組みについて

途中から始めた授業中のクイズは、学生からそれなりに良い評価を得たものと判断する。レポート課題に関しては、書く内容に関するフレームワークを提示することで、そうしない場合よりも質の良いものになっていたとのことから、教育効果向上への取り組みの成果が伺える。

### 5. 今後の授業改善のための課題や方策について

現在検討している授業中の講義の割合を減らし、演習の割合を増やすことを始めとして、学生の興味・関心をより高めるための改善を続けることが望まれる。なお、講義内容があまり技術的でないこともあり、どのような演習をするかは知恵が必要であるため、問題意識のある他の教員の意見も参考としながら、検討を進める必要がある。